

崎山湾・網取湾自然環境保全地域
指定書（素案）

平成 年 月 日

環境省

崎山湾・網取湾自然環境保全地域

1．指定理由

本地域は、沖縄県八重山列島西表島の西端に位置する崎山湾、網取湾及び両湾周辺の海域であり、人為の影響が少なく自然性の高い清澄な海域となっている。

崎山湾では、清澄な海域を生息場所とするミドリイシ類をはじめとする多種のサンゴから成るサンゴ礁が発達し、網取湾では、多様な湾内環境に応じたサンゴ礁が発達し、湾内の深みには西表島の固有種であるアトリセンベイサンゴの大規模な群集が存在するなど、両湾及び周辺の海域は豊富な海中生物相を有している。

このように本地域は、自然環境保全法第22条第1項第5号の「その海域内に生存する熱帯魚、さんご、海藻その他の動植物を含む自然環境が優れた状態を維持している海域」に該当しており、自然環境保全地域として保全を図る必要がある。

2．自然環境の概要

本地域は亜熱帯に属し、黒潮の影響を受けて海水温が高く、また集水域には、網取湾湾口部の研究施設を除いて人工物がほとんどなく、人為の影響が少ないため海水が清澄である。

崎山湾は北西に開口し、湾内にはミドリイシ類、コモンサンゴ類、ハマサンゴ類などからなるサンゴ礁がよく発達している。また、水深の浅い湾中央部には、海産顕花植物であるウミショウブが優占する海草藻場が広がっており、流入河川の河口周辺干潟では、魚類、貝類、甲殻類の貴重な種が確認されている。

網取湾は、崎山湾同様に北西に開口するが、湾の奥行き及び水深が深く、波浪や潮流の影響が少ない内湾的な環境を有するとともに、干潟から深みまで、湾内の環境変化が顕著なことも特徴である。

網取湾中央部の深みには、西表島の固有種であるアトリセンベイサンゴの大規模な群集のほか、トゲサンゴ・ヒメエダセンベイサンゴ群集、葉状サンゴ等多種のサンゴの混成群集などが存在している。湾奥や東岸の浅場にはウミショウブやウミジグサが優占する海草藻場が帯状に分布しているほか、湾の最奥部の浅い砂泥地には、ヤナギウミエラ属の一種の群生が見られる。流入河川の河口周辺干潟では、魚類、貝類及び甲殻類の貴重な種が確認されている。

このように崎山湾及び網取湾は、ともに自然性の高い優れた自然環境を有しており、そこには大規模なサンゴ群集や海草藻場が存在し多種多様な生物種が生息・生育している。

その一方で、両湾は地形や湾内環境を異にしており、その相違を反映して両湾それぞれに特徴のある生物群集を見ることができる。

3．区域

(1) 区域の概要

本地域は、崎山湾、網取湾及び両湾周辺の海域を区域とする。

(2) 位置及び区域

沖縄県八重山郡竹富町字崎山及び字西表地先海面（図1のとおり）

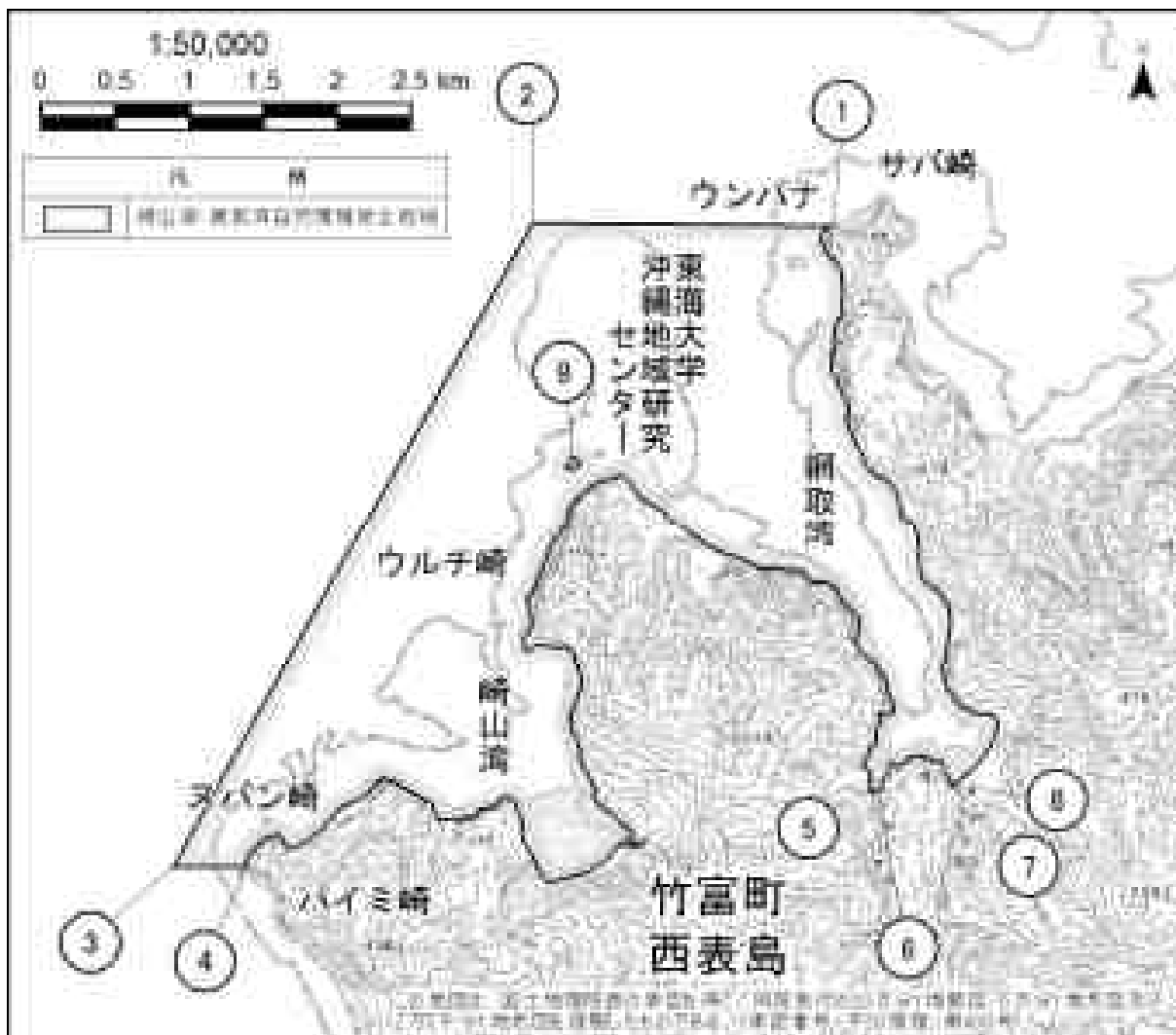
(3) 面積

1,077.1 ヘクタール（うち海域 1,077.1 ヘクタール）

（４）土地所有関係

区域の全域が海域となっているほか、八重山漁業協同組合の共同漁業権が設定されている。

図1 崎山湾・網取湾自然環境保全地域区域図



[区域]

- ウンパナから真北を0度として270度に伸びる直線界
- 北緯24度20分53.029秒東経123度40分50.091秒の地点と北緯24度18分31.130秒東経123度39分24.194秒の地点を結ぶ直線界
- ヌバン崎から真北を0度として270度に500m伸びる直線界
- 汀線(最高高潮位)界
- 北緯24度18分47.933秒東経123度42分10.108秒の地点と北緯24度18分48.031秒東経123度42分12.713秒の地点を結ぶ直線界
- 汀線(最高高潮位)界
- 北緯24度18分49.350秒東経123度42分30.830秒の地点と北緯24度18分49.460秒東経123度42分31.465秒の地点を結ぶ直線界
- 汀線(最高高潮位)界
- 汀線(最高高潮位)界

座標値は新測地系(JGD2000)に準拠